

## 研究結果

### 韓国のなかの日本庭園の痕跡とその影響に関する研究

The investigation on the effects and vestiges of Japanese Gardens in Korea

本研究は、韓国の西南部地域に残る日本関係の庭園遺跡を対象に、近代史における庭園文化の位置づけや意義などを明らかにし、その庭園遺跡に対する今後の方向性つまり、復元と補修などに伴う方案を提案する基本的なデータベースを作成することを目的としている。

本研究の対象地とした群山、靈光法聖浦、木浦、羅州栄山浦などは、近代の開港地として日本人の居留地でもあったところとして日本関係の近代遺構が多く確認された地域である。その遺構の一部は近代文化遺産に指定され、復元修理されているところもあるが、その多くは保存状態が厳しく危険な状態で放置されていた。また、指定保存されているものも建築のみのものも多く、その建築の外部空間としての造園の方はほとんど考慮されずに整備されていた。こうした状況のなかでも、幸いにも木浦の李勳東庭園、群山の李永春家屋、そして寶城の住宅庭園では日本庭園の特徴である書院造り庭園や回遊式庭園、そして茶庭の痕跡を確認することができた。特に木浦の“李勳東庭園”は建築物ではなく庭園、つまり日本庭園の特徴が認められ、文化財として指定された稀なものである。この庭園は1930年代に造成された書院造り庭園を中心とした回遊式庭園として、そこには当然ながら韓国式と融合する特徴も見られたが、日本式庭園の原型を復元・維持しようとする心配りが色濃く残っていた。しかし、その維持管理、特に樹木の剪定や手入れなどに対する技術的な限界が目につき、日韓の造園技術に関する文化交流が望まれるところである。

### 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

木浦 “李勳東庭園”の日本式庭園の特徴に関する研究・金真成・韓國伝統庭園學會誌  
・Vol. 27 No. 3 ・2009, 9.

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)